



ホールロビー



イノホール。旧ホールのイメージを継承している。



エントランス。イベントが開かれ、交流の場となっている。



飯野ビルディング



選評

日比谷公園と愛宕通り中央官庁街に面した、一九六〇年竣工の先代飯野ビルディングの、超高層複合用途テナントオフィスビルへの建て替えプロジェクトである。名建築として評価の高かった先代飯野ビルは、モータリゼーションの到来を見越した、建物を貫通するドライブスルー式のアプローチを持つ計画や、ベース照明に一一〇ワット直列蛍光灯の採用等、建築と設備計画共当時最先端の複合ビルであった。設計だけでなく、施工面でも現在の逆打工法といえる地上階地下階の同時施工等、先進的な試みがなされていた。この良質な建築のDNAを、物心共に受け継ぎかつ今の時代の社会の要求に読み替えて、新飯野ビルディングはこれからの将来を見据えた高い環境性能と、高度なレベルの事業継続性を持つ都市施設に生まれ変わった。

建物は、既存地下地域変電所を稼働させながら、大深度掘削を伴った逆打工法によって施工された地下五階、地上二七階、延床面積約一〇万平方メートルの規模で、低層部にコンベンション機能を加えた「イノホール」を中心とした、ビジネスや文化、行事イベントなどの情報発信、交流機能施設を配置し、高層部二層がオフィスという構成となっている。オフィスゾーンの外装は、超高層ビルでは類を見ない、ワイドな開口の自然通風貫通型ダブルスキンカーテンウォールとなっており、床から天井までの透明なガラススクリーンを介して素晴らしい眺望が得られる。さらに、低層と中層エレベーターの上部の外部空間を活用して、自然の風や、光を取り入れ、一般的には相性が悪い自然換気とダブルスキンを見事に組み合わせ、テナントビルとは思えない高いレベルの省エネ性能を確保した上で快適な執務空間を創出している。建築エンジニアリングと環境エンジニアリングが見事に融合した設計施

BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計、施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2016年で57回を数えます。

< 2016年 第57回 BCS賞受賞作品 > 飯野ビルディング 大手町タワー／大手町の森 京都国立博物館 平成知新館 グランフロント大阪 高志の国文学館 ザ・リッツ・カールトン京都 住田町役場 東京スクエアガーデン 流山市立おたかの森小・中学校、おたかの森センター、こども図書館 日清食品グループ the WAVE 穂の国とよはし芸術劇場 プラット 八幡厚生病院本館 山梨学院大学国際リベラルアーツ学部棟 Ribbon Chapel 龍谷大学 和顔館 [特別賞] 札幌市北3条広場・札幌三井JPビルディング 日本橋室町東地区開発：室町東三井ビルディング、室町古河三井ビルディング、室町ちばぎん三井ビルディング、福徳神社



建築主 より

安全と環境に配慮した100年ビルを目指して

当時の先進的な思想を盛り込んだ1960年竣工の旧飯野ビルには愛着を持った方も多く、建替えに際してはその思想を受け継ぎ、今後100年使われ続けることを目指しました。時を経て陳腐化しない将来を見据えた安全安心な建物とし、公開空地や地下接続によるネットワークの確保等、地域の環境や利便性への取組みを重視しました。

環境配慮として、大型テナントビルで

ありながら高い省エネルギー性能を備えた建物とし、入居テナントと一体で更なる省エネ化に取り組むと共に、生き物に配慮した緑溢れる大きな森を設けて希少な日本ミツバチの飼育も行っています。

旧ビルから継承したイイノホールでは昼夜を問わず様々な演目を開催し、屋外の不定期の地域交流イベント、1階エントランスの若手演奏家のコンサートは地域の賑わいとして定着しています。



飯野海運株式会社
執行役員
不動産事業部長
小林宏是
Hirohito Kobayashi



株式会社竹中工務店
執行役員
設計本部長
菅 順二
Junji Suga

長期を見据えた良質な都市施設を目指して

旧飯野ビルから今回の建替えまでの半世紀、利便性を優先した高度成長期から環境の時代への価値観の変化は印象的です。しかし新しい飯野ビルディングは、立地の特性への対応、地域への文化・サービス貢献、時代における先進性の精神などを旧ビルから受け継いでいます。

江戸時代に隣接していた外堀の内外結節点であった敷地の歴史的な文脈を背景とし、虎ノ門方面への結節点(ゲート)とし

ての都市機能を、大規模なピロティや地下通路による貫通空間、日比谷公園から連続する緑を愛宕方面に繋げる起点としての緑化、環境の時代に向かう外装技術・デザイン、イイノホールを配した文化交流発信のための低層デザインに、4つのゲート性として表象しました。長期を見据えた良質な建築をという建築主の想いに支えられ、高いサスティナビリティと環境性能を目指しました。

設計者 より

施工者 より

「いい物・いい人・いい仕事」で総力を結集

長く愛され続けた旧飯野ビル・イイノホールの精神を受け継ぎ“100年ビル”を目指して特別な想いで取り組みました。地下30.2mの既存解体を伴う逆打工法は、大深度かつ地域インフラに影響を及ぼさないよう浸水・振動対策に高レベルな管理が必要でした。緻密な施工計画で地上鉄骨・地下掘削を一日も止めずに施工できたことと、過去に例のないダブルスキン外装を支持部材のPC化とフロアクレーン

による積層工法により大幅な合理化を実現できたことは、当社技術の粋を結集した大きな成果と考えます。期中仕上げ工事最盛期に東日本大震災に遭遇しましたが、遅延なく完成できたことは「いい物・いい人・いい仕事」を合言葉に、熱心な建築主・経験豊富なリーダー会・勤勉な設計施工スタッフの熱意が融合した底力であり、誰にでも誇れる、そして未来へ引き継げる作品であると自負しています。



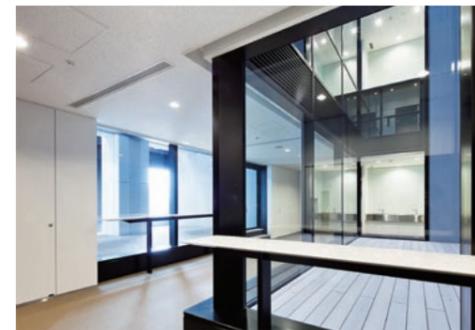
株式会社竹中工務店
国際支店
シンガポール作業所
総括作業所長(SPD)
鈴木一巳
Kazumi Suzuki



ピロティ。日比谷公園、イイノの森、愛宕方面へのネットワークが創出された。



基準階内観。外装はワイドな開口の自然通風貫通型ダブルスキンカーテンウォール。



リフレッシュコーナー

工のお手本のような作品である。特筆すべきは、江戸時代に計画地南側に隣接していた外堀内外の結節点であった敷地の歴史的な文脈を背景にしながら、都市施設として、近接する施設計画と協働した地下の新しいネットワークも創出し、周辺環境を活性化する都市機能と景観を生み出している点にある。高層棟のコア配置の工夫によって生み出され愛宕通りに沿った大規模なピロティや「イイノの森」と名付けられた緑豊かなオープンスペースが防災とイベントの対応機能を持った街の貫通空間として、

皇居および日比谷公園と愛宕方面を繋いでいる。「イイノの森」はまた、生物多様性に配慮した在来種主体の緑のネットワークの起点として、街区に心地よい憩いの場を提供している。建築主の先代飯野ビル時代から続く建築文化への熱い思いを受け、設計者・施工者が総力を結集して新たな都市景観を生み出した。三者の理想的なチームが作り上げたまさにBCS賞にふさわしい完成度の高い作品として高く評価する。【選考委員】五十嵐太郎・宮崎浩・河野晴彦

計画概要

建築主：飯野海運(株)

設計者：(株)竹中工務店

施工者：(株)竹中工務店

所在地：東京都千代田区内幸町2-1-1
竣工日：平成26年10月31日

敷地面積：8,027㎡
建築面積：4,642㎡
延床面積：103,826㎡

階数：地上27階、地下5階、塔屋2階
構造：鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄骨造、鉄筋コンクリート造